

温泉表示

環境省の表示義務に基づいています。

泉質 含沃素重曹食塩泉
温度の設定 通常40℃に設定しています

温泉の処理 加水は行っていません
入浴に適した温度に保つため加温しています
衛生管理のため循環ろ過装置を使用しています
衛生管理のため塩素系薬剤で消毒をしています

浴用の適応症

創傷および火傷 リウマチ性疾患 運動器障害 慢性湿疹および角化症
皮膚掻痒症 虚弱児童 女性性器慢性炎症 卵巣機能不全症
子宮発育不全症および月経障害 更年期障害

浴用の禁忌症

すべての急性疾患(特に熱性疾患) 進行性結核 悪性腫瘍 重い心臓病 出血性疾患
高度の貧血 その他一般に病勢進行中の疾患 妊娠中(特に初期と末期)

入浴の方法および注意

- 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。
その後は1日あたり2回ないしは3回までとすること。
- 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
- 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に、湯あたり(湯さわりまたは浴湯反応)が現れることがある。
「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ、または入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - (ア) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 - (イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 - (ウ) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。
(湯ただれを起こしやすい人は、逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)
 - (エ) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - (オ) 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。(イ)高度の動脈硬化症 (ロ)高血圧症 (ハ)心臓病
 - (カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 - (キ) 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - (ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。

純和風の宿 天龍荘

温泉分析書

分析者 小室 芳洵

登録分析機関の名称
千葉県衛生研究所

試料1キログラム中の成分・分量および組成

分析／昭和49年12月25日

(イ)陽イオン

成 分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール％(mval%)
カリウムイオン (K ⁺)	12.00	0.3069	0.82
ナトリウムイオン (Na ⁺)	790.0	34.35	92.17
アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)	13.60	0.7539	2.02
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	8.257	0.4120	1.11
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	17.50	1.439	3.86
第一鉄イオン (Fe ²⁺)	0.230	0.0082	0.02
陽 イ オ ン 計	841.59	37.27	100.00

(ロ)陰イオン

成 分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール％(mval%)
塩素イオン (Cl ⁻)	673.7	19.00	50.86
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	2.469	0.0514	0.14
ヒドロ磷酸イオン (HPO ₄ ²⁻)	0.672	0.0140	0.04
ジヒドロ磷酸イオン (HPO ₄ ⁻)	0.029	0.0003	0.00
ヒドロ炭酸イオン (HCO ₃ ⁻)	1,082.5	17.74	47.48
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	6.517	0.2172	0.58
ヒドロケイ酸イオン (HSiO ₃ ⁻)	1.264	0.0164	0.04
ホウ酸イオン (BO ₂ ⁻)	0.056	0.0013	0.00
ヨウ素イオン (I ⁻)	3.769	0.2969	0.79
臭素イオン (Br ⁻)	1.232	0.0154	0.04
水酸イオン (OH ⁻)	0.043	0.0025	0.01
陰 イ オ ン 計	1,772.25	37.36	99.98

(ハ)遊離成分

成 分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)
メタケイ酸 (H ₂ SiO ₃)	63.98	0.8194
メタホウ酸 (HBO ₂)	0.934	0.0213
腐植質 ()	8.8	
非 解 離 成 分 計		

溶存物質
(ガス成分を除く)
2,687.554 g/Kg

成 分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)
遊離炭酸 ()	26.03	0.5914
()		
溶 存 ガ ス 成 分 計		

成分総計
2,713.58 g/Kg

(ニ)その他の微量成分(mg)